

佐渡金銀山 世界遺産に名乗り

あす文化庁へ提案

知事と市長会見



佐渡金銀山遺跡の世界遺産登録に向け、共同会見する泉田知事（右）と高野市長＝28日、県庁

佐渡市の佐渡金銀山遺跡の世界遺産登録を目指し、泉田裕彦知事と高野 一朗市長は二十八日、県庁で会見し、文化庁に名乗りを上げること

らかにした。

遺産登録の前提となるユネスコ暫定リストへの候補記載に向け、二十九日、同庁に提案する。

提案書は「金と銀の島、佐渡―鉱山とその文化―」と題し、①相川金銀山など金銀鉱山遺跡群②大立堅坑や大間港など近代鉱業遺産③京町などの町並み、港町小木など鉱山都市遺跡④能楽などの文化や、能舞台や社寺建築―を遺産の核とした。

登録運動の意義について泉田知事は、「佐渡が培ってきた文化も放っておけば朽ちてしまいかねない。大事に守ってほしい」という意識が（島民、県民に）広がればいい」と指摘。観光客など交流人口増への期待も挙げ

た。一方、石見銀山遺跡（島根県）が既に暫定リストに記載されていることについて高野市長は「規模の大きさ、文化の膨らみという観点での違いを強調したい。ボランティアの協力もいただき、機運を盛り上げたい」と述べた。